

Abstract

血友病家族歴のある女性の妊娠選択

Reproductive choices of women in families with haemophilia

R. A. Kadir, C. A. Sabin, E. Goldman, D. Pollard, D. L. Economides and C. A. Lee

血族に血友病AまたはBをもつ女性、またはその可能性のある女性の妊娠経験および妊娠に対する意志を評価するため、当血友病センターに登録している14～60歳の女性を対象に郵送によるアンケート調査を実施した。545人中197人(36%)から解析可能な回答が得られた。患者カルテから各血族の血友病タイプ、重症度、および保因者検出のためのDNA解析結果を得た。160人の女性が最低1回の妊娠経験があり、うち36人(23%)は出生前診断検査を受けていた。中絶経験のある41人のうち、血友病が中絶の主な理由であったと回答したのは11人(27%)のみであった。中絶するか否かの決定には、宗教やDNA検査の結果も影響していた。また、妊娠を決意する要因としては、近隣での血友病センターの有無や、センターでのカウンセリング、出生前診断検査の知識などが挙げられ、今回のアンケート

の対象となった女性でも、初回の妊娠については14%、2回目以降については10%の女性が妊娠を決意する要因としてこれらを挙げている。特に、血族に重症血友病患者がいる女性($p=0.002$)や確定保因者($p=0.04$)は、これらの要因を考慮する率が高かった。アンケートの対象となった女性のうち、子供を産まないと決意した女性は、その理由として、子供への血友病遺伝への憂慮(44%)や血友病患者としての自己経験(6%)、および出生前検査を受けるストレス(7%)などを挙げている。一方で、血族内血友病患者の重症度や自己の血友病診断、DNA検査結果、宗教、出生年を挙げた女性はほとんどいなかった。我々のデータは、血友病と血族内関連因子がこれらの女性の妊娠選択に影響していることを示唆している。